

「こども誰でも通園制度」に関する事業者アンケート調査について 概要版

対象 :こども誰でも通園制度事業者23か所
 調査期間:令和8年1月16日～1月23日
 回収数 :22か所 ※端数処理のため、比率の合計が一致しない場合があります。

Q 利用する子どもの育ちにどのような意義があると感じますか？(複数回答可)

「保護者や家族以外の大人(職員)と関わる機会を得ることができる」「同年齢・異年齢の子ども同士で関わりあう機会を得ることができる」がそれぞれ25%で最も多く、次いで「様々な遊びを経験できる」が24%となっている。

項目	回答数	比率
保護者や家族以外の大人(職員)と関わる機会を得ることができる	16	25%
様々な遊びを経験できる	15	24%
同年齢・異年齢の子ども同士で関わりあう機会を得ることができる	16	25%
発達状況に合った集団生活を経験できる	7	11%
保護者が子どもの理解を深めたり、関りを見直すきっかけとなることで関係性が良くなる	7	11%
その他	0	0%
特に感じない	2	3%
合計	63	100%

Q こども誰でも通園制度を行うことで、地域の子育て支援に有効であると思いますか？

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が73%となっている。

項目	回答数	比率
そう思う	7	32%
どちらかと言えばそう思う	9	41%
どちらかと言えばそう思わない	4	18%
そう思わない	2	9%
合計	22	100%

Q こども誰でも通園制度を行うことで、利用する子どもたちの成長・発達を感じることはできますか？

「感じる事ができる」「どちらかと言えば感じる事ができる」が77%となっている。

項目	回答数	比率
感じる事ができる	11	50%
どちらかと言えば感じる事ができる	6	27%
どちらかと言えば感じる事ができない	5	23%
感じる事ができない	0	0%
合計	22	100%

Q 今後、保育についてどのようなことが課題や難しさだと感じますか？(複数回答可)

「子どもが環境に慣れることが難しい」が 25%と最も多くなっており、次いで「日々の業務負担が増え、全体的に子どもと向き合う時間が減っている」が 18%、「子どもの情報量が少なく、子どもの様子や特徴を把握することが難しい」が 14%となっている。

項目	回答数	比率
子どもが環境に慣れることが難しい	14	25%
子どもの情報量が少なく、子どもの様子や特徴を把握することが難しい	8	14%
在園児との関わりが難しい	1	2%
在園児との経験値の違いにより、同一の関わりをすることが難しい	7	12%
日々の業務負担が増え、全体的に子どもと向き合う時間が減っている	10	18%
子どもの安全確保が難しい	5	9%
要支援家庭の対応が難しい	2	4%
配慮が必要な子どもや家庭の対応が難しい	3	5%
緊張感が高く、精神的にゆとりのない保育を行っている	3	5%
特に課題や難しさはない	2	4%
その他	2	4%
合計	57	100%

Q 今後、事業者にとってどのようなことが課題や難しさだと感じますか？(複数回答可)

「保育士の確保」と「人件費の保障」が 16%と最も多くなっており、次いで「補助拡充や安定的な資金確保」が 15%、「一時預かり事業とのすみ分け」が 13%となっている。

項目	回答数	比率
補助拡充や安定的な資金確保	15	15%
保育士の確保	16	16%
人件費の保障	16	16%
従事者の制度理解や負担軽減	11	11%
一時預かり事業とのすみ分け	13	13%
利用時間の拡充	3	3%
アレルギー対応等の安全・環境の整備	10	10%
制度の存在や趣旨の周知・浸透	8	8%
通常保育への影響	10	10%
その他	1	1%
合計	103	100%